

インベントリ土壤調査法北海道講習会

開催日：2007 年 7 月 24～25 日

開催地：北海道上川郡和寒町 上川北部森林管理署 2355 林班け小班 ID 012160（グレード 1）

記録

北海道の調査を担当する機関を対象に、上川北部森林管理署管内の国有林で土壤調査法講習会を開催した。会場はグレード 1 の調査プロットの中から林野弘済会旭川支部の方に設定していただいた。プロットは尾根近くを通る林道から徒歩でしばらく斜面を下った場所であった。林相はシナノキを主とする広葉樹天然林であったが、林冠が大きく疎開し、林床はササが覆っていた。

1 日目は 12 時 30 分に道央道と寒インターチェンジに集合し、現場に移動した。自己紹介、講習概要の説明の後、全員でプロット内を移動しながら、見取り図の作成、代表断面の位置決め、炭素蓄積量調査の位置決め、枯死木調査の実習を行った。プロットは谷頭部に位置し、小規模な沢が枝分かれして斜面を刻んでいた。中心杭は沢に挟まれた小尾根の斜面上に位置していたため、代表断面は沢からの距離と傾斜がほぼ同様の SE 方向の大円外側に設定した。枯死木調査では、基線の長さを変曲点毎に区切って測る実習に時間がかかった。

その後、機関別に 4 班に分かれて 4 地点の炭素蓄積量調査を行った。ササが多い地点は事前に林野弘済会旭川支部の方に刈り取っていただいていたが、それでもササの除去には時間を費やした。構造が発達した乾いた土壌の地点が多かったが、沢筋にあたったため多湿な土壌の地点もあった。作業スペースの広さやササの繁り具合が場所によって異なっていたこともあり、炭素蓄積量調査の講習は班毎の進捗が大きく異なった。試料採取まで全て終了したのは 1 地点のみであったが、終了予定時刻を過ぎたため 17 時半頃に 1 日目の講習を終了した。

2 日目は 8 時 30 分に林道入り口に集合し、現場に移動した。まず全体で代表断面調査法の講習を行った。プロット外で、鋤を用いた根の切り方等、掘り始めの手順を実演した後、1 日目に掘削してあった代表断面に移動して、断面の調整、層位区分、断面記載、土壌型判定の講習を行った。土色、土性、構造は、各自試料を手にとって判定法を実習した。その後順次試孔に入って断面を観察した。土壌型は、堆積有機物層が薄く、F、H 層の発達が見られないこと、A 層の土色が淡く層界が漸変していること、A 層から B 層下部まで堅果状構造が発達していること等から、Bc と判定した。

代表土壌断面の実習の後、前日の進度に応じて班毎に炭素蓄積量調査の実習を行った。旭川支部は 1 日目の講習が終了していたため、土壌断面記載と試料採取を継続した。1 日目に円筒採取の実習が未着手だった 2 班は、プロット外で最表層の分析用試料と円筒を採取する実習を行った。根や礫が多かったため、円筒の採取には時間を要した。最後に、プロット外に全員が集合し、円筒採取ができない場合のブロックサンプリングによる定体積試料採取法を実演した。予定より 30 分遅れて 12 時 30 分に講習会を終了した。残っていた代表断面調査や円筒採取の実習が全て終了したのは 13 時半頃であった。

林野弘済会旭川支部の方々には会場の設定やササ刈り、道具の準備等で大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

講師

森林総研 本所	吉永、伊藤（優）
森林総研 北海道支所	相澤、酒井、阪田

参加者（敬称略）

林野弘済会旭川支部	押野、得永、吉田、小岩、高橋、荏戸、金沢
林野弘済会札幌支部	西山、山口、坂井
プラトー研究所	丸山、米田、神、嶋崎、古市
環境総合テクノス	栗栖、片山、池田

時間配分

24 日

12:30 和寒 IC 集合、現場へ移動

13:30 現場到着

自己紹介、講習概略説明

全体講習 プロット見取り図作成、代表断面位置決め、炭素蓄積量調査位置決め、枯死木調

査法

16:00 4班で炭素蓄積量調査実習

17:30 1日目終了

25日

8:30 林道入り口集合、現場へ移動

9:10 現場到着

全体講習 代表断面掘削法、代表断面調整、層位区分、記載項目、記載法、土壌型判定法

11:05 班毎に実習 代表断面記載、試料採取、炭素蓄積量調査

12:05 全体講習 プロット外でブロック採取法説明

12:30 講習会終了

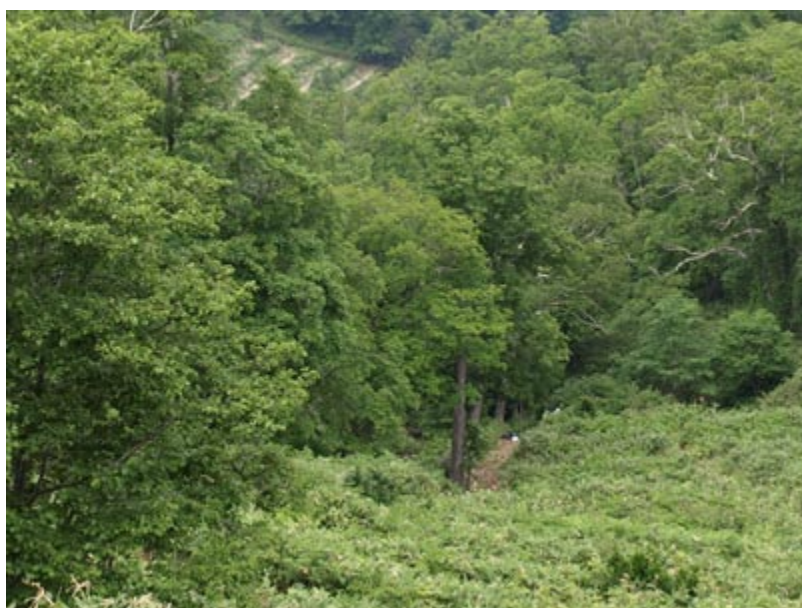
13:25 現場撤収



代表土壌断面 土壌型 BC



ササ地における調査



調査地遠景（林道から見下ろした林相）